

The Expert



平成27年1月10日発行

● リウマチ膠原病センター 川合 眞一 教授(昭和52年・慶應義塾大学卒)

8名のリウマチ専門医で診療しています

私は高校まで浜松で育ち、1977年に慶應義塾大学医学部を卒業しました。当時は、卒業後直ぐに診療科に所属するシステムであったので内科に進むことを決め、さらに内科ローテーション中にリウマチ内科を選びました。その後、米国国立衛生研究所(NIH)への留学や都立病院勤務を経て、1991年より聖マリアンア医科大学難病治療研究センターに異動しました。1999年に同センター教授となりましたが、大森病院で膠原病科を立ち上げることとなり、2004年4月に教授として着任しました。

私の専門領域は関節リウマチや全身性エリテマトーデスなどのリウマチ膠原病疾患全般ですが、特にステロイドや免疫抑制薬、また抗リウマチ薬などによる薬物治療を専門としています。そのため、最近大きく進歩した関節リウマチや他の膠原病の治療法については、多くの基礎および臨床研究に携わり、実際の患者さんの治療でも最新の薬物療法を行ってきました。また、関節リウマチの治療にはメトトレキサート(商品名:リウマトレックスなど)という標準治療薬がありますが、1999年の承認当時は上限用量が週8mg(週1~2日だけ服用する薬)と欧米の1/3ほどで使い難い薬でした。それを厚生労働省や医薬品医療機器総合機構などと相談しながら倍量の週16mgにしてもらうなど、行政に働きかける活動も中心的に担ってきました。その他の関節リウマチ治療薬では、現在では当たり前のようになった生物学的製剤と呼ばれる注射治療薬についても多くの薬の開発に関わり、承認後は多くの患者さんに使っています。

全身性エリテマトーデスや顕微鏡的多発血管炎などのいわゆる膠原病疾患では、現在でもステロイドが中心的な治療薬です。ステロイドは良く効くのですが、顔が丸くなるばかりでなく感染症や骨粗鬆症などの副作用が従来から大きな問題になっていました。しかし、これらの疾患でも最近ではシクロホスファミド(商品名:エンドキサン)などの免疫抑制薬や、ときに生物学的製剤なども積極的に使うようになり、大きく変わりつつあります。当科では、こうした新しい考え方で組み立てた最新の治療法を、患者さんと充分に話し合って納得してもらった上で行っています。

以上、紹介させていただいたように、リウマチ膠原病疾患の治療はこの十数年で大きく進歩しました。大学以外でもリウマチ専門医としてこれらの最新治療薬に造詣の深い先生方もいらっしゃいますが、副作用で入院が必要になった場合などを心配されて使用に躊躇されている場合も少なくないと思います。当科には私を含めてリウマチ専門医が8名おりますので、いつでもご相談いただければ対応させていただきます。

● 診療予約

診療のご予約は、下記までご連絡下さい。
診療日・診療時間をご案内いたします。

● 診療日

川合 眞一 教授：火曜日午前
木曜日午前

医療機関専用電話

パートナー

03-3762-6616 (直通)

(受付時間 平日 8:30~17:00、土曜 8:30~14:00)

(休診日:第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10)



東邦大学医療センター大森病院
Toho University Omori Medical Center
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
03-3762-4151 (代表)
<http://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>
発行元：地域医療支援センター